

少年は町の未来 夢に向かって力をつけよう ～少年教育推進目標～

## わくわく体験塾 ～<sup>たこ</sup>凧・コマづくり～



凧に絵を描いている様子

11月15日、わくわく体験塾は文化センターさざ波で7回目の体験活動「<sup>たこ</sup>凧・コマづくり」を実施しました。この日は20名の塾生が出席し、全員が凧を完成させて、凧あげを楽しむことができました。

お正月の風物詩といえば、凧あげやコマ回しでしたが、今はあまり見かけることもなくなりました。今回の体験塾では、ビニール袋とストロー、タコ糸などでできる簡単な凧づくりを実施。どの子もビニールにお気に入りの絵を丁寧に描き、時間ギリギリまで丁寧に仕上げることができました。

また、この日は時間がなくてCDを使った現代風のコマづくりまでは進めませんでしたが、今度、機会があれば色が消えたように見えるコマづくりにもチャレンジします。



凧をあげている様子

## 子ども会交流ミニバレーボール大会が開催されました。

11月9日に湧別町青少年指導センター（平野寿雄所長）主催による、子ども会交流ミニバレーボール大会が開催され、ジュニアの部（3～6年生）8チーム、ティーンズの部（7～9年生）4チームが集まり、大会を行いました。

これまでの練習の成果を発揮する好プレーが続出し、応援に来ている保護者の方々の応援にも熱が入っていました。



大会の様子



全体写真



明日の元気は、きょうのスポーツから みんなで体を動かし楽しもう ～スポーツ振興の推進目標～

## “走って・投げて楽しくバスケットボール” ～チャレンジスポーツスクール～

11月8日に「チャレンジスポーツスクール」が湧別総合体育館で開催され、22名が参加しました。

第6回目となる「チャレスポ」は、スポーツ推進委員の岸下委員が講師となり「バスケットボール」を行いました。2人1組を作りパス練習やコーンの周りをドリブルしながら走るなど、ボールに慣れていきました。試合になると、「パス、パス！」などと声掛けもできていて、バスケットボールを楽しんでいました。



練習の様子

高齢者は町の知恵袋 豊かな経験を地域で生かそう ～高齢者教育推進目標～

## “懐かしのレコード鑑賞会” チューリップ生きがい大学が鑑賞会を行いました

チューリップ生きがい大学では11月13日に、昨年度に引き続き遠軽町在住の川端孝行氏を招いて「懐かしのレコード鑑賞会」を行いました。

今年も皆様のリクエストにお応えして淡谷のり子、大月みやこ、フランク永井、ビートルズなど当時のレコードで聴きました。

最初は橋幸夫、吉永小百合のデュエット「いつでも夢を」から始まり最後に美空ひばりの「川の流れのように」そして、アンコールの小林旭「自動車ショー歌」まで全22曲を楽しみました。

歌謡曲、演歌、グループサウンズ、洋楽やクラシックなど様々なジャンルの曲が流れ、体でリズムをとったり、口ずさんだり、踊ったりしながら聴いていました。また、前回の講演会で話を聞いた菅野養蜂場の菅野さんから送っていただいたハチミツ飴をなめながらゆったりとリラックスした時間を過ごすことができました。

レコードの音はデジタル音源とは違った暖かさがあがり、この日集まった生きがい大学の学生も当時のことを思い出しながら懐かしい歌に耳を傾けていました。



鑑賞中の様子

芸術・文化は未来を生きるヒント ～創造力と豊かな心を育てよう～

## ONEOR8「ママごと」湧別町公演 -それぞれの本心と本音が交差する、家族の物語-

都市の高級料理店を舞台に、若い夫婦とその家族が織りなす“本心と本音”の揺れを描いたONEOR8の話題作「ママごと」。些細なすれ違いが思わぬ方向へ転がっていく、人間味あふれる会話劇です。

温かさも切なさも、どこかにある“自分の家族の姿”と重なるような、心に沁みる物語。実力派キャストが、笑いと共に満ちた時間をお届けします。生の舞台が持つ臨場感と、ONEOR8ならではの細やかな演技を、ぜひ湧別町でご体感ください。

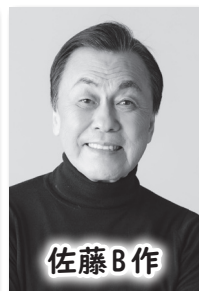
皆さまのご来場をお待ちしております。



福田 沙紀



須賀 健太



佐藤 正作

**日時** 令和8年2月15日(日) 14時開演(13時30分開場)

**場所** 湧別町文化センターさざ波

**チケット** 一般3,000円、高校生以下2,000円 ※当日は各500円増

※未就学児の入場はご遠慮頂いております。

※車いす席には限りがあります。

※前売券完売の場合は当日券の販売はありません。

**取扱い** 湧別町文化センターさざ波・TOM、遠軽町芸術文化交流プラザ、紋別市民会館

**主催** 良いもの見よう聞こう会、北海道新聞社

**後援** 湧別町教育委員会

**お問合せ** 良いもの見よう聞こう会事務局(湧別町社会教育課内) TEL 01586-5-3132

リレーエッセイ

## スポーツ推進委員さんのある一日 第180回

「ダンダンダン」「パス!」「シュート!」——体育館には、子どもたちの笑顔や足音、そして元気な応援の音が響き渡っています。月に1回のチャレンジスポーツスクールに参加する子どもたちは、どの種目にも一生懸命に、そして楽しそうに取り組み、スポーツの魅力を体いっぱいに感じています。そうした様子を目にするたび、私自身もスポーツの楽しさを改めて実感し、子どもたちからたくさんの元気をもらっています。

先日、オホーツク管内のスポーツ推進委員研修会に参加しました。研修会では、日頃あまり関わる機会のない職種の方々とお話しする場があり、一期一会の出会いを通して良い刺激と学びを得ることができました。また、講師の先生からは「体の可動域」の重要性について教えていただきました。私自身、年齢を重ねるにつれて体の硬さを感じていましたが、今回の研修内容を日常生活に取り入れ、雪が解ける頃には楽しく運動できるよう、日々学びながら様々なことに積極的に取り組んでいきたいと感じました。

スポーツ推進委員 太田 愛



## 教育委員会委員に中川悠一さんを再任

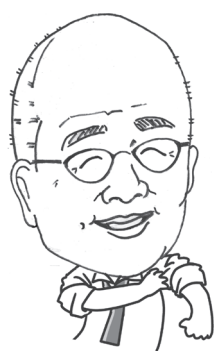
11月30日任期満了に伴う湧別町教育委員会委員に中川悠一さんを再任いたしました。委員の任期は、12月1日から4年間となります。

現在の教育委員会は、次のとおりです。

【敬称略】

職 名	氏 名	住 所	職 業	任期年月日
教 育 長	阿 部 勉	栄 町	—	令和 8年 3月20日
教 育 長 職務代理者	岩 佐 雅 弘	緑 町	神 官	令和10年11月30日
委 員	井 上 久 恵	上湧別屯田市街地	自営業	令和 9年11月30日
委 員	喜 多 友 美	芭 露	看護師	令和 8年11月30日
委 員	中 川 悠 一	北兵村一区	自営業	令和11年11月30日

## 石さんのわくわく子育てコラム No.5 【そんなことあるんだ！】



「石さん」

※石塚教育アドバイザー

家庭訪問先でお母さんに「先生どこの生まれですか？」と聞かれ「旭川です」と答えると「私もなんです！」。話してみると、旭川生まれ、誕生日は昭和38年3月21日、血液型B型、病院も同じ、ここまで同じことってあるんですね。家庭訪問のない学校も増えてきましたが、担任の先生と話してみると、意外な一面にふれることができるかもしれませんね……。子育てのことで心配なことがありましたらご相談ください。

教育委員会 社会教育課（01586）5-3132



図書館は町民の憩いの場 みんなで学び楽しもう ～図書館活動推進目標～

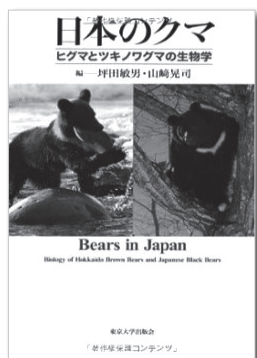
## ～クマ特集 クマの生態を知り、身を守るためには～

今年の11月はクマによる被害が多発しました。そこで今回は日本のクマの痕跡の見分け方やクマのくわしい生態などが載っている本を2冊紹介します。他にも湧別図書館・中湧別図書館には多数のクマに関する本を所蔵しています。お気軽にお問い合わせください！



「山でヒグマに遭わない・死なない観察力」著 稗田一俊・長谷千恵子

北海道の森林深層部での豊富な踏査経験を持つ著者のお二人による本来の「ヒグマの素顔」や「地域のヒトとクマの日常」に迫った本です。他にもヒグマの不思議な生態やヒグマを避けるためのヒント、北海道行政のヒグマ対策などなどが多数の写真で掲載されています。「ニュースで報道されるヒグマの情報しか知る術のない方」に、「ヒグマは本来どんな動物なのか」を伝えたいという著者の思いが込められた1冊です。この本は湧別図書館で借りることができます。



「日本のクマ ヒグマとツキノワグマの生物学」編 坪田敏男

先月、町民大学で講演された坪田敏男さんによるヒグマとツキノワグマの生物学に関する本です。近年、人里に多く出没する地域もありますが、なかには人間との問題から絶滅が心配される地域個体群が存在します。人間とクマとの共存をめざして、生態学、生理学、獣医学、保護管理学など、さまざまな分野の最前線で活躍する研究者が書き下ろした「クマ学」の決定版となる一冊です。この本は中湧別図書館で借りることができます。

## 中湧別図書館「読み聞かせ会」のお知らせ

【日時】 1月17日（土）13時30分から14時00分

【場所】 中湧別図書館 おはなしコーナー

### 1月の図書館休館日・年末年始休館日

1日(木)、2日(金)、3日(土)、4日(日)、5日(月)、12日(月)、19日(月)、26日(月)

\*図書整理日（月末日）は休館日です。（月末日が土曜日・日曜日の場合は翌火曜日です。）

\*図書館休館日に返却される方は、玄関にあるブックポストをご利用ください。

【開館時間】 10時00分 から18時00分

【貸出冊数】 ひとり何冊でも借りられます。

【連絡先】 中湧別図書館 電話 2-3150

lib-n@town.yubetsu.lg.jp

【貸出期間】 2週間

湧別図書館 電話 5-3122

lib-y@town.yubetsu.lg.jp

埋蔵文化財シリーズ89

R7遺跡調査報告会

## サロマ湖周辺の2つの竪穴住居群

博物館だより

—ふるさと館 JRY・郷土館—

【191号】

11月1日、ふるさと館 JRYで遺跡調査報告会を開催しました。報告内容はシブノツナイ竪穴住居群の新たな名称や調査総括速報と、東京大学常呂実習施設が行っている大島遺跡群の調査成果についてでした。

## 新名称「川西シブノツナイ遺跡」

今年の調査報告会には、町内外から約30名の方々にご参加いただきました。

1つ目の報告は、ふるさと館 JRYの林勇介学芸員が「シブノツナイ竪穴住居群の調査総括速報」と題して行いました。今年は、平成30年から令和6年までの7年間の調査総括を行っており、確認された遺跡の特徴の内2点の説明がありました。それは、①年代は11世紀から12世紀中頃に集中していること、②キビやオオムギなどの雑穀、サケやウグイが食材として用いられていたことです。擦文文化後期を代表する遺跡として評価が高まってきました。

その他、遺跡の名称に「川西シブノツナイ遺跡」が用いられることについて、説明がありました。文献等に基づいて、今後は近隣の2つの遺跡を含めた名称とすることも検討されています。



調査報告会開会の様子

## 焼失住居はくらの情報が豊富



大島遺跡群の焼失住居について説明する熊木先生

2つ目の報告は、東京大学大学院人文社会系研究科の熊木俊朗教授が「大島遺跡群の発掘からわかる擦文文化」と題して行いました。

大きく3点についてお話がありました。1つ目は擦文文化の概要、特に竪穴住居跡の特徴について。2つ目は北見市常呂町の大島遺跡群で行っている発掘調査では、他に例を見ないほど焼失住居が多く出土遺物が豊富であること。3つ目は出土遺物からわかる竪穴住居跡での儀礼やくらしについてでした。

専門的な視点でありながらとても分かりやすく解説いただき、シブノツナイの調査からだけではわからない擦文文化のくらしについて、知見が深まる内容でした。

## 湧別町生涯学習情報「湧く湧く」 2025年12月号 No.191

編集発行…湧別町教育委員会 社会教育課 〒099 - 6404 北海道紋別郡湧別町栄町219 - 1  
<https://www.town.yubetsu.lg.jp/>

印刷…林印刷所（中湧別北町） 発行…令和7年12月25日

記事へのお問合せは下記へ

\*社会教育課社会教育グループ…電話：01586 - 5 - 3132 FAX：01586 - 5 - 3710  
 メール：shakyo@town.yubetsu.lg.jp

\*湧別図書館……………電話：01586 - 5 - 3122 FAX：01586 - 5 - 3256

\*中湧別図書館……………電話：01586 - 2 - 3150 FAX：01586 - 2 - 3190

\*ふるさと館 JRY……………電話：01586 - 2 - 3000 FAX：01586 - 2 - 3200